

キャンパスから

小樽商大
松家仁教授

は、それまで働いていた首都圏と似ているので、札幌以外ということでも小樽を選びました。雨が降っても傘を差さない人が多いなど、のんびりとした小樽での生活を満喫しています」

「学部の卒業論文に取り組む過程で、一つの研究課題に向き合う面白さに気づいたからです」

「研究内容は、

「坂が多く冬が厳しい小樽の暮らしで、障害者や体の不自由な高齢の方々の苦勞を日々実感しています。」

定年後、充実の院生生活

定年退職後に暮らしを充実させようと、大学に再入学する人が増えています。小樽商科大では大学院に進む人も出てきました。この春、商学部企業法学科を卒業し、大学院博士前期課程企業法学コースに進学した石田滋夫さん(67)に話を伺いました。

「退職前は千葉県に住んでいましたね。本学を選んだ理由は、

「定年後は北海道に住むのが夢でした。ただし札幌



大学院生の石田滋夫さん

こうした経験から、障害者の就労を巡る諸問題に強い関心を持つようになり、修士論文のテーマとして取り組んでいます」

「本学の院生生活の感想を教えてください。」

「小樽商大は院生が少なく、家庭教師のように一対一で教えてくれます。コロナ禍でなかなか教室での対面授業をできないのが残念ですが、先生方の努力でオンライン授業の精度が上がっており、内容も充実してきています。毎週の課題は大変ですが、私よりずっと若い先生方が懇切丁寧に教えてくださいます。1人暮らしの気楽さを楽しみつつ、少人数教育、充実した図書館、豊かな自然など研究に没頭できる環境の中で、充実した大学院生生活を過ごしています」